

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 6 年度愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会 (あいかわ町民活動応援事業)		
事務局 (担当課)		総務部住民協働課 内線 3 2 4 3		
開催日時		令和 6 年 6 月 1 9 日 (水) 午後 2 時～午後 4 時 3 0 分		
開催場所		役場新庁舎 2 階 2 0 1 会議室		
出席者	委 員	5 人 (別紙のとおり)		
	その他	4 人 (応募団体の説明者)		
	事務局	4 人 (総務部長、住民協働課長、ほか 2 人)		
公開の可否		☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開	傍聴者数	3 人
非公開・一部公開の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 委員及び職員の紹介 4 会長及び副会長の選出 5 会長あいさつ 6 議 題 (1) 令和 5 年度あいかわ町民活動応援事業の実績報告 (2) あいかわ町民活動応援事業概要及び審査部会の進め方について (3) 個別ヒアリング ①愛川町小中学校草刈り隊 ②はねやすみ (不登校・ひきこもり親の会) 7 審 査 8 講 評 9 その他 10 閉 会		

審 議 経 過

(1 / 1 2)

※審議の要旨は次のとおり（○は委員の発言、□は応募団体の発言、●は事務局の発言）

1 開 会

2 あいさつ（前公務のため、議題6（3）個別ヒアリング途中に実施）

3 委員及び職員紹介

4 会長及び副会長の選出

- ・委員の互選により、会長に古賀学委員、副会長に翁長陽子委員を選任した。

5 会長あいさつ

6 議題

（1）令和5年度あいかわ町民活動応援事業の実績報告＜事務局説明＞

（2）あいかわ町民活動応援事業概要及び審査部会の進め方について＜事務局説明＞

（3）個別ヒアリング

① 【町内小中学校の環境整備事業】

：愛川町小中学校草刈り隊

□ 申込団体からの事業の概略・ポイント等の説明（記載省略）

○（A委員） 会員とサポーターを合わせて38人ほどいるとのことだが、年齢の幅はどれくらいなのか。

□ 最年長で59歳、最年少は高校生となっており、PTAに携わってきた人が主要メンバーとなっている。

○（A委員） 地域との連携という中で、田代小学校では別の団体が活動しているが、この団体との連携はあるのか。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(2 / 1 2)

□ 田代小学校でいえば、その団体が活動しているため、草刈り隊としては、要請を受けたことがない。

愛川町の小中学校は合計で9校あるが、昨年は8校から依頼を受け、除草作業を実施したが、唯一要請を受けていない1校が田代小学校となっている。現状としては、田代の関係者で賄えているようであるが、草刈り隊としては、要請が来た際には参加させていただくつもりでいる。

○(B委員) 先ほどの回答で会員の大半がPTAに携わってきた方との話があったが、人員は足りている状況なのか。

□ 近年各学校が同じ日に除草作業を行うことがあり、その際は会員を分けることになるため、少ない学校は2、3名になってしまう時もあるため、サポーターや声かけで集まったボランティアの方も含めて、事業を行っている。

○(B委員) 会員を増やす方法はあるのか。

□ 団体活動を続けてきた結果、町内小中学校にも認知されるようになったことで、活動へのありがたさを感じてくれている現PTAの方が数人加入してくれた。

○(B委員) 令和5年度は講習会が未実施となっているが、なぜなのか。また、今年度も同じく12月に実施予定となっているが日程をずらすという考えはなかったのか。

□ 講習会に関しては、令和4年度には地元の農機具販売店の方をお願いしてやってもらっていたが、令和5年度は仕事が忙しいという理由で受けてもらえなかった。講習会を12月に行う理由は、春の時期だと田植え作業があり、難しいという声が

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(3 / 1 2)

あった。安全に作業を実施するためにも講習会は行っていきたい。

○（Ｃ委員） ３８人の会員とサポーターがいて、その他は声かけを行い、参加者を集めているとのことだが、昨年度の実施した実績を見る限り、参加者が少ないように感じるが、その場合は、作業内容を減らすなど工夫をしているのか。

□ 実績に記載されているのは、会員の参加人数であり、サポーターや声かけをして集まった参加者は含まれていない。草刈り作業の開催前に学校が保護者に開催チラシを配布するなど行っているため、全体の参加人数は３０名から４０名ほど集まっており、その中の数名が会員ということである。他の団体とも協力して草刈り作業を行っており、今年の５月に中原中で行われた草刈り作業には、地域の方、児童生徒、保護者含め２００名ほど集まった。

○（Ｃ委員） 将来展望として、学校や地域などと一体となった活動を行うと提案書には記載されているが、具体的に考えはなにかあるのか。

□ 本事業は実際に地域交流の場となっており、今まで関わる事がなかった学区外の方々との交流が深められ、お互いの地域を手伝い合ったり、情報交換の場にもなっているため、その状況を今後も継続していきたい。

○（Ｃ委員） 学校を中心とした活動ということで、自治会や消防団、育成会等の地域団体との関り合いはあるのか。

□ 今までも関り合いはあり、会員の友人に消防団員や育成会員がおり、声かけを行い参加してもらうなど交流が行われている。校内の除草作業は、本団体主導ではなく、あくまでも学校が主導で行っている。また、草刈り作業の際には、団体でオリ

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(4 / 1 2)

ジナルのTシャツを着用し活動することで、地域の方々にも興味を持ってくれて、交流のきっかけになっている。最初は一校内の除草作業から始まったが、交流が広がり、今では中津地区の学校から半原地区の学校までオール愛川での活動となっている。

○（D委員） 提案書の中で活動方針と実際の活動計画が異なっているが、具体的な内容や実施の有無が知りたい。

□ 基本的この提案書に記載しているのは、P T Aと協力して行う計画であり、実際には学校敷地外の通学路を清掃する手伝いや、単独での草刈り活動も行っている。

○（E委員） 計画したものを必ず実行するという事は難しいことではあるが、特に安全というところは重要であるため、講習会に関しては必ず実行する意識で取り組んでいって欲しい。できる人ができる時間にできる範囲で行う方針は良いとは思いますが、逆に自由だということで捉えられてしまうと計画通りいかないことも出てくるので、引き締めるところと緩めるところの線引きを行い、取り組んでいった方が良いのではないかと。また、周辺道路の美化作業の中には花壇の整備も含まれていると思うが、花を植える活動なども実施の検討はしているのか。

□ 実際に花を植える活動となると難しく、花壇の中の除草作業でとどまっている。昨年の実績でいうと、草刈りの際に校庭の木の枝の剪定などは行った。

○（E委員） 花壇の整備などは、学校の生徒が行っているのか。

□ 学校で花植えボランティアという活動があり、そちらが中心となっている。

○（E委員） 花植えボランティアは外部の団体が行っているのか。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(5 / 1 2)

☐ 学校中のボランティア活動となっている。

○（E 委員） 花植えボランティアとは連携していないのか。

☐ 花を植えたくても雑草等が茂っている場合は、依頼を受けて草刈りを行っている。

○（E 委員） 参加者側のメリットが増えると、参加者の増加に繋がるのではないかと
思うが何か考えはあるか。

☐ 現状、思いつくことはないが、子ども達に喜んでもらえるのが一番のメリットで
あると考えている。学校でも草刈りに参加するとタオルがもらえることがあるが、
綺麗になった校庭を子どもたちに使ってもらえることが嬉しい。また、他校との繋
がりなど交流が持てたこともメリットであると考えている。

② 【不登校・ひきこもりの会によるピアカウンセリング】

：はねやすみ（不登校・ひきこもり親の会）

申込団体からの事業の概略・ポイント等の説明（記載省略）

○（C 委員） ピアカウンセリングを使ってどういう活動をしているのか教えて欲しい。

☐ だいたい5人～10人で行っており、最初は自己紹介で悩みや心配、子どもや家
庭のことなど自由に話してもらい、メンバーは質問や意見などせず、じっくり聴く。
その後、相手から了承があれば、参加者が質問やアドバイス等の発言ができる。話
された内容は口外しないなど、事前に決めたルールに沿って行っていく。アウトプ
ットをすることが、ピアカウンセリングに繋がる。

○（C 委員） ピアカウンセリングで話をする人も聴く方も、不登校やひきこもりを

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(6 / 1 2)

持つ子どもの親の当事者の方々なのか。

☐ 不登校やひきこもりの子どもを持つ親の当事者や、多様な学びに関心のある方も参加しており、町内の学校運営協議会の役員、地域学校協働活動推進員やフードパントリーを運営している方、町外からも元町民で当時不登校だった方や起立性調節障害の支援を行っている団体の方などが参加してくれている。

○（Ｃ委員） 構成員名簿で２３人の記載があるが、そのうちの何名かが、実際のイベントに参加しているということなのか。

☐ はい。

○（Ｃ委員） その会員の中の全ての人が不登校・ひきこもりの子どもを持つ親の当事者ではなく、会を運営するために協力してくれている立場の方となると、実際の不登校・ひきこもりの児童生徒の把握はどのように行っているのか。

☐ 不登校・ひきこもりの児童生徒の把握には困っており、誰がどこで困っているかの把握ができていない状況で、イベント等の周知を行っている。そのため、自らインターネットで検索し、運よく見つけた方が本団体に声をかけてくるような状況にある。

○（Ｃ委員） 提案資料の中に入っているイベントのチラシは学校など、どこかに掲示しているのか。

☐ 学校ではスクールカウンセラーの相談室前の廊下、町内のコンビニエンスストアやスーパーマーケット、あいかわ町民活動サポートセンターに掲示するなどの広報活動を行っている。一番良い周知方法としては、学校の先生から話してもらい、存

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(7 / 1 2)

在をしてもらうことだと考えており、学校との連携に力を入れていきたい。

○（C委員） 参加者はイベントごとに毎回違うのか。

□ 同じ方が参加していることもあれば、申込をしても参加できていない方もおり、参加者は10名程度となっている。本団体のグループLINEで毎回イベントの周知を行っている。参加者は、不登校・ひきこもりの子どもを持つ親（当事者）と当事者ではないが、寄り添いたいと考えている方が、おおよそ半分ずつの割合となっている。

○（C委員） 不登校を考える保護者の会が年2回の開催予定となっているが、参加者は団体の会員ということなのか。

□ 会員の方や新規の一般人の参加者も予定している。

○（C委員） イベントには、学校の先生が参加することはあったのか。

□ 以前先生をしていた方の参加があった。

○（C委員） 今まで行ったイベントで現役の先生、スクールカウンセラーが参加する時はあったのか。

□ 昨年のイベント開催時には、学校のスクールカウンセラーが参加したことがあった。

○（C委員） イベント開催する際の基本的な参加者は、団体関係者になるのか。

□ はい。

○（B委員） 事業概要の中に学校に行きづらい子どもを持つ保護者で、どこにも繋がりがなく、相談できずに一人で悩みを抱えている方に、会の存在を届けられるよ

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(8 / 1 2)

うにすると記載があるが、どこにも繋がっていない方などは情報得る手段がないと思うが、周知の方法としては、学校の先生からの周知のみなのか。
□ 団体のPR方法として、あいかわ町民活動サポートセンターの活用、団体のブログでの発信、県の青少年センターのホームページ上での県央地域NPO等情報で掲載を行っている。
○（B委員） 能動的でないと見つけてもらうことができないのではないか。
□ はい。そのため、教育委員会の方にもイベントの周知チラシ等を持参し、PRの依頼を行っている。
○（B委員） 個人情報に関わってくると思うが、教育委員会からは不登校・ひきこもり児童生徒の情報は教えてもらえるのか。
□ 個人情報の問題で教えてもらうことはできない。そのため、イベントの周知チラシ等を教育委員会へ持参し、PRの依頼を行っている。
○（B委員） 去年はプレで事業実施したと記載があるが、やっている中で困ったことや手ごたえを感じたことはあったか。
□ 団体・イベントのPRには苦戦しているが、参加者からの反響があり、事業を続けることへの意義を感じることができた。
○（A委員） スクールカウンセラーとの情報交換などの連携や繋がりはあるのか。
□ 繋がりはないため、教育委員会へお願いするしかないと考えている。
○（A委員） 本事業の対象となる不登校・ひきこもりの児童生徒の年齢層はどうなっているのか。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(9 / 1 2)

☐ 本事業は、小学校・中学校・高等学校・ひきこもりの方が対象になっているが、どこの年代に多いのかは分からない。

○（Ｃ委員） この会に参加する不登校・ひきこもりの子どもを持つ親は、申込制となっているが、団体構成員はどれくらい参加しているのか。

☐ 構成員の中にも当事者の保護者も含まれているが、全体の参加者に対して半分程度が参加している。

○（Ｃ委員） イベントに参加した一般人に対しては、次回開催の周知は行うのか。

☐ 行っている。

○（Ｃ委員） その際には、まだ参加していない身の回りの人にも声がけをお願いしてもいいと思う。

☐ 学校によっては、自身のブログでイベント開催の周知や、全生徒向けメールの中に入れてくれ、団体ＰＲの場になっている。

7 審 査

8 講 評

○（委員Ｃ）

【町内小中学校の環境整備事業】

・事業を継続すること、会員を増やすこと、地域の関連団体との連携を図りながら、通学路等の更なる環境整備の拡大を目指して欲しい。

【不登校・ひきこもりの会によるピアカウンセリング】

・イベントの周知に力を入れていくこと、半原方面の対象者も参加しやすいように、

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(1 0 / 1 2)

会場を増やすなどの取り組みも検討していった欲しい。

- ・今後も教育委員会やスクールカウンセラーとの連携を図って事業を進めていった欲しい。

○（A委員）

【町内小中学校の環境整備事業】

- ・草刈りの際に刈払機を使用する作業と切った草を集める作業を分ける2ステップの取り組みが連携の輪を広げているため、今後も継続して行っていく欲しい。

【不登校・ひきこもりの会によるピアカウンセリング】

- ・個人情報の取り扱いが難しい中で、カタルシス効果をうまく引き出した良い事業であり、今後も教育委員会や他の団体との連携を期待している。

○（D委員）

【町内小中学校の環境整備事業】

- ・生徒児童やPTAの減少によって、校庭の環境整備が課題となっている中で、当団体の活動は意義あるものであり、今後も他地域団体との連携を行っていくことが理想である。

- ・本活動は教育委員会や学校等がリーダーシップをとって行う活動ではあるが、環境整備の在り方について、整理検討をしてもらい、各団体と協力・連携をして活動していった欲しい。

【不登校・ひきこもりの会によるピアカウンセリング】

- ・子どもとその親の社会的孤立を防ぐ活動は良いものであり、目標達成のためにも学

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(11 / 1 2)

校や関連団体と連携することが必要である。

- ・当事者が親の会を知ったとしても参加することへの敷居が高いと思うので、積極的に学校や関連団体と話し合う機会を持って欲しい。

○（B委員）

【町内小中学校の環境整備事業】

- ・多くの参加者が集まったの活動に頼もしさを感じるが、刃物を使用する活動であるため、人が増えると安全性の確保も難しくなると思うので、スケジューリングを意識して活動して欲しい。
- ・活動範囲を広げることも大切であると思うが、無理がない範囲で継続して活動して欲しい。

【不登校・ひきこもりの会によるピアカウンセリング】

- ・この活動をもっと多くの人に知ってもらえるように情報提供のツールを増やすなど情報発信の仕方を工夫して欲しい。

○（E委員）

【町内小中学校の環境整備事業】

- ・人力の確保を継続して行っていくことが大切である。
- ・刈払機の研修等の実施で安全性の確保に努めて欲しい。
- ・学校との役割のすみ分けが大切であり、話し合う機会を作った方がいい。

【不登校・ひきこもりの会によるピアカウンセリング】

- ・個人情報の守秘義務をいかに守っていくかが重要である。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

(12 / 1 2)

・親の価値観のアップデートの把握は困難なものではあるが、なんらかの形で把握できるとより良いものになると思う。
【総評】
・採択された際には、提案した内容で採択されているため、申込書の計画をしっかりと守ることで重要である。万が一契約変更等がある際には迅速に、担当課へ相談して欲しい。
・多くの住民の方々が参加する事業であるため、守秘義務への配慮が必要である。
・もっとも重要なものは成果であるため、事業結果に対する質問が出ないように記載する内容も細かく記載するなど工夫して欲しい。結果を確かめるには、参加者と主催側と分けてアンケート調査を行うことが有効であるため、無理がない程度に行うと良い。
・持続可能な事業で繰り返し行うことも大切であるが、実施事業の内容によっては前向きに変化していくことも大切である。参加者にメリットや楽しくなるような工夫もして欲しい。
7 その他（事務連絡）
（会議録の承認は、会長に一任することで決定する）
8 閉 会（会長副会長）

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長（委員長）
署名欄

古 賀 孝

愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会委員名簿

任期：R6.4.1～R8.3.31

氏 名	選出区分	備 考	出 欠
熊 坂 良 介	公募による町民		出 席
小 林 文 雄	公益活動に実績のある者		出 席
小野澤 悟	町の各種施策に知見を有する者		出 席
翁 長 陽 子		副会長	出 席
古 賀 学	専門委員	会 長	出 席